



辻川だよい

第8号 [2008冬号] 平成20年12月6日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホ-ムペ-ジ [http://www10.plala.
or.jp/tujikawa/](http://www10.plala.or.jp/tujikawa/)

11日13:30 しで踊る宵宮



12日17:00 新しい幟と吉田と

一月には総会が開催され、今年の事業計画を発表しました。一月から始まった新コミ分別も記憶に新しいものでした。四月には回を重ねて23回目の運動会が区民参加で行われたことがもうれしいことです。七月から八月にかけては辻川界隈展を盛大に開催する事ができました。特に『民俗学の夕べ』は辻川しか出来ない「辻川っこ」行事の一つで、我が地区の氏神様である鈴の森神社で行われることに意義があります。今後も是非続けていきたいものです。

まわし着用を認めた今年の秋祭りはいじ数年になり頑張りを感じました。まわしについていろいろな意見があるとは思いますが、何よりも区民の気持ちが一つになることが重要です。今後も辻川の運動において心を一つに取り組んでいこうとの大切さを感じた一年でした。

時過ぎるのは早いもので、今年もう一ヶ四年になります。切らして、

A wide-angle photograph of a traditional Japanese festival scene. In the center, a massive, intricately carved wooden float is being pulled by many people. The float features a large golden dragon perched on top of a white lion. The base of the float is covered in gold leaf and various decorations. In the foreground, a crowd of spectators, mostly men wearing green shirts with white kanji characters on the back, watch the float pass. The background shows a modern building under a clear blue sky.

11日11:00 西田中・井ノ口と



12 日 16:00 本宮の木方会議

協議委員会は今

委員会での報告や検討した
内容を一部紹介します。

- ② 壱川山保全協定継続
③ 町内会費等徴収のための在籍確認及び公平感のある世帯の定義検討
④ 公民館下水道接続工事業者選定は振り出しに戻す。

前編の予定

平成21年度総会
1月10日(日) 13:30~

高麗[00翻刻]卷之

◆1月1日・2日

◆、月、の田(11)、の里
タマギス (錦の森・恵美須神社)

◆1月15日(木) 15時
とんど(鈴の森・高藤稻荷神社)

事業未報生

總長・各種團體役員會議

② 秋祭り実行委員会構成・運

行予定等説明（再度、9月28日に打合せ会議実施）

敬老の日の催事
今年は77歳以上の区内対象者1300名中40名の参加者が西脇健康ワンドヘル。お題「舞蹈・歌謡ショー」をやつくりやつたり楽しんだ。来年は時期を早める予定。

◆10月11日(土)

福永菊一さん(明治39年生まれ)が福崎町の男性最高齢者になりました。百二歳おめでとうございます。「広報ふくさきより」

「まわし」公認の秋祭り初年。
心配された雨も宵宮の早朝に上
がり、絶好の祭日和の一晩にな
った。28日の肩合せ、5日
の台車新調安全祈願・青年団
や木方を中心に、祭りを楽しむ
心が一つになり、本宮参入のみ
ならず、福寿園下から旧道を屋
台倉まで練り通す近年にない練

入れず銀山公園の目的地^{*}龍源寺間歩(まち歩)には付近の大森の街を散策する。夜は玉造温泉へ。

* 三百年前に開された長さ6000mの大坑道。唯一内が公開されている

りを見せた。見事として感謝。



11日 13:00 奉納相撲



11日 16:00 縁の下の力持ち



12日 14:30 宮入で二度差し

た役員の皆さんの苦労がよく分りました。区民の皆様一人一人の協力なしができない仕事だと思いました。いろいろな行事に追われて十分な事が出来ずに終わっていく感じがします。これからも体育等を通して連帯感が持てればと思います。

田崎正和 は、編集後記に

★年頭の総会で協議委員選挙の規約が改正されています。

「協議委員は、満七十歳を超える者、または、在任5期（十年）を超える者は再選されない」となっています。(注意ください)。

昭和初期の辻川界隈

第4回

『あの頃は一年を通じて樂しい

事が多くありました。幸せな子供時代でした。元日は式があり、

学校から帰ると皆で双六（すうろく）

や、カルタ取り、トランプ、百人一首など、負けると顔に墨を

つけ興じました。一日は皆、家庭で書初めをします。始業式に

学校へもって行き、よいのは展

示されました。井戸の“えび

すさん”は何時も粉雪の舞う寒い日でした。

神積寺の“鬼追い（追儺）”

は広い境内に大勢の人々が並んで待っています。けたたましい鐘

を合図し女の神様である“山の神”がたいまつをかざして出でます。各々の村の屋台は後ろに役員さんが羽織袴で杖を持ってつき、拍子木の合図で少年たちは電線上げをしていました。皆それを伊勢音頭を唄い、掛け声をかけ、重い屋台を大勢で心を一つにして、かつて通ります。

能野権現様の境内は広く、それの屋台のそばの木立の中でお弁当を食べます。我が家でも巻きあし、鰯鮓を作りました。

境内では金銀のきれいな屋台がぐるりと並んで壯觀でした。皆、色違ひの手拭いを首に巻いていました。拝殿の正面で「ヒーヒンヤ、ドッコイサ」「ヒーヒンヤ、エーヒーヤ」で高く差し上げ五穀豊穰を祈ります。平素は閑散とした境内が人々、太鼓の音で最高潮に。神様の最高の日でした。』

（原文を一部割愛、変更しました）
注1) 十月十七日は神嘗祭（かんなめさつ）の祝日。神嘗祭は天皇がその年の新穀を伊勢神宮で天照大神（あまてらすおおかみ）に奉納する祭儀。当時は神嘗祭後の稻刈りが一般的でした。

田原村の熊野権現様には夏祭り、秋祭りがありました。秋祭りの十月十六日には辻川の村で屋台を飾り、注1)十七日は朝から太鼓の音がし、子供も晴れ着を着ます。振袖の着物を着る子供もあり、大人もよそ行きを着ます。洋服は少なかつたと思いま

す。家庭では小鯛（さば）の塩抜きをして、すし御飯を詰め、姿

すしを作り、木箱に並べ、はらは思つてゐなく、今までやつていつれ

んの葉で蓋（ふた）をして置きます。各々の村の屋台は後ろに役

員さんが羽織袴で杖を持ってつき、拍子木の合図で少年たちは電線上げをしていました。皆それを伊勢音頭を唄い、掛け声

をかけ、重い屋台を大勢で心を一つにして、かつて通ります。

能野権現様の境内は広く、それの屋台のそばの木立の中でお弁当を食べます。我が家でも巻きあし、鰯鮓を作りました。

境内では金銀のきれいな屋台がぐるりと並んで壯觀でした。皆、色違ひの手拭いを首に巻いていました。拝殿の正面で「ヒーヒンヤ、ドッコイサ」「ヒーヒンヤ、エーヒーヤ」で高

く差し上げ五穀豊穰を祈ります。平素は閑散とした境内が人々、太鼓の音で最高潮に。神様の最高の日でした。』

（原文を一部割愛、変更しました）

注1) 十月十七日は神嘗祭（かんなめさつ）の祝日。神嘗祭は天皇がその年の新穀を伊勢神宮で天照大神（あまてらすおおかみ）に奉納する祭儀。当時は神嘗祭後の稻刈りが一般的でした。

編集後記

これでやっと任期を終えました。少し残つてしまつた『昭和初期の辻川界隈』は後任に引き継ぎます。日々多謝。 [田崎]